



家畜市場 価格の推移 (2月)

▼子牛価格(三次家畜市場)

(単位:円・頭・kg・%)

種類	入場頭数	成立	取引	最高	最低	平均	体重
スモール	雌	7	6	85.7%	22,050	1,050	10,950
	雄	214	195	91.1%	69,300	1,050	39,787
計	221	201	91.0%	69,300	1,050	38,874	
F1	雌	188	172	91.5%	169,050	29,400	122,884
	雄	241	226	93.8%	235,200	49,350	166,885
計	429	398	92.8%	235,200	29,400	147,602	
ホルス(5才) 雌	68	67	98.5%	347,550	64,050	178,052	

▼搾乳素牛価格(北海道)

(単位:円・頭)

市場	開催日	出場頭数	成立頭数	成立率	最高価格	最低価格	平均価格
十勝	5日	530	432	81.5%	723,450	408,450	573,903
根室	6日	458	392	85.6%	656,250	269,850	555,951
南北海道	7日	143	135	94.4%	687,750	248,850	518,646
豊富	13日	312	209	67.0%	638,400	364,350	528,411
十勝	19日	701	581	82.9%	804,300	259,350	585,490
北見	20日	387	255	65.9%	659,400	284,550	525,544
釧路	26日	305	251	82.3%	739,200	370,650	547,042
根室	27日	441	338	76.6%	729,750	414,750	567,671
合計		3,277	2,593	79.1%	804,300	248,850	550,332

業務報告 (2月分)

- 3日 飼料利用推進委員会
- 5日 東部地域新TMR組合員説明会
- 6日 職員退職準備セミナー
- 6日 家畜改良推進事業会議
- 7日 西部地域新TMR組合員説明会
- 7日 東部管内青年部研修講演会
- 7日 衛生指導協会事務推進会議
- 6日 備北南部地域新TMR組合員説明会
- 10日 TMRセンター飼料混合ピット完了検査
- 10日 西部ミルク会フラワーアレンジメント
- 12日 牛乳普及協会運営委員会
- 12日 年金・健康保険研修会
- 13日 酪青女事務局会議
- 13日 生産基盤強化対策委員会
- 14日 農畜産業振興機構事業推進全国会議
- 14日 第十二回理事會
- 14日 中販連との意見交換会
- 15日 役員合同研修会・親睦交流会
- 15日 東部管内組合員交流会
- 17日 山陽乳業(株)役員ハラスメント研修
- 18日 千代田町酪農協議会総会
- 18日 JA農政担当部課長会議
- 18日 生乳安全・安心会議
- 18日 生産委員会
- 18日 JA経営対策担当部課長会議
- 18日 JA税務基礎研修(二十日迄)
- 19日 ラクトコーダ現地検討会(十九日迄)
- 19日 ヘルパー調整会議
- 19日 ゆめさくら視察旅行
- 19日 TPP全国代表者要請集會
- 20日 産業廃棄物適正処理講習会
- 20日 酪農ヘルパー事業円滑化推進委員会
- 20日 (農)清流の里(ア)ム庄原WCS検討会
- 21日 (二社)広島県酪農協会役員会
- 24日 山陽乳業(株)経営検討会・取締役会
- 25日 TPPに関する街頭活動
- 26日 学乳推進協議会
- 27日 グリーンウインズさとやま取締役会
- 28日 酪農経営移譲推進支度金交付巡回
- 28日 農林年金一時金選択推進担当者研修会
- 28日 三原市酪農振興会酪農慰霊祭
- 28日 広島県畜産振興協議会

編集後記



- ▼酪農家(組合員)の皆様は、三月十七日迄に平成二十五年次の青色申告を済まされて、「終わった」と安堵感を抱かれているのでは無いでしょうか。
- ▼平成二十四年次と比較してみても如何でしたでしょうか?
- ▼日本酪農政治連盟が過日開催した常任・中央委員会では、平成二十五年度の乳価交渉経過を回顧し、委員の一人からは「平成二十五年度の乳価交渉において、決定した乳価値上げ分にはアベノミクスによる円安影響分などは考慮されてない。乳価値上げ要求額は、国の行った標本調査『生乳生産費』に基づくもので、実態と乖離しているのでは無いか。むしろ、各県地域の実態数字を抑えて定めることが適当では無い」と指摘の声があったと聞く。
- ▼三月五日開催された日本酪農政治連盟総会の冒頭で佐々木委員長は、乳価値上げが要求額に及ばなかったことへの無念さを述べられている。
- ▼広酪の岩竹組合長は、今後の乳価交渉への姿勢・展望を見据える中で、中国生乳販連に対して「乳価交渉の素材を国の生乳生産費としての標本調査によらず、同連五会員の酪農家の協力を得て、手始めに平成二十五年次青色申告書をもとにした調査実行を行われたい」と提案した。
- ▼同連からは、会員実務責任者会議で検討したいとの見解が示されたが、現状その検討会が招集されていない。
- ▼こうした状況にある中、広酪では生乳出荷組合員の皆様に平成二十五年次青

市町別生乳受託量の進捗状況(2月)

(単位：トン)

市町名	生乳生産量	生産占有率	前年比(同月)	25年度累計	前年比(累計)
庄原市	891.2	21.9%	103.3%	10,416.5	102.8%
三次市	773.1	19.0%	96.4%	9,270.6	98.8%
世羅町	509.8	12.5%	111.3%	5,854.1	104.9%
北広島町	401.5	9.9%	89.7%	5,016.8	91.3%
安芸高田市	358.1	8.8%	95.6%	4,201.2	95.8%
東広島市	338.2	8.3%	101.9%	3,941.2	95.7%
府中市	214.5	5.3%	90.0%	2,623.3	91.1%
広島市	167.7	4.1%	88.5%	2,055.7	96.2%
福山市	125.9	3.1%	101.4%	1,415.8	98.0%
三原市	92.0	2.3%	87.2%	1,156.3	94.3%
神石高原町	84.6	2.1%	90.9%	1,027.9	100.5%
廿日市市	57.3	1.4%	98.0%	674.0	91.8%
呉市	53.6	1.3%	106.8%	572.4	96.3%
合計	4,067.4	100.0%	98.3%	48,225.9	98.1%

2月分乳価は？

■ 2月分プール乳価は 107.826円
前月分は 106.280円 前月対比 101.4% (税抜き)

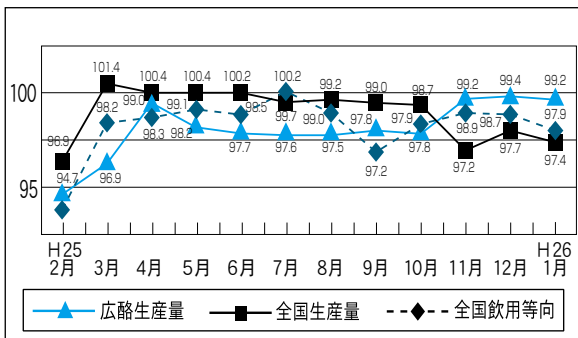
生乳受託実績(2月)

地域	備北	南部	西部	東部	合計
生乳出荷組合員戸数(戸)	44	12	48	46	150
生乳出荷量(トン)	1,473.8	391.8	984.5	1,217.3	4,067.4
前年同月対比(%)	100.8%	102.5%	92.0%	99.7%	98.3%
前月対比(%)	92.5%	91.1%	91.5%	91.9%	91.9%
生乳出荷累計(トン)	17,332.2	4,513.7	11,947.7	14,432.4	48,225.9
広酪構成比(%)	35.9%	9.4%	24.8%	29.9%	100.0%

市町別の生乳出荷組合員による購買品利用高の状況(1月)

No	市町名	購買品利用高(千円)	生乳出荷量(トン)	購買品利用占有率	生乳1kg当たりの購買品利用高(円)
1	庄原市	45,514	968	27.6%	47.0
2	三次市	37,283	838	22.6%	44.5
3	安芸高田市	20,513	386	12.4%	53.1
4	北広島町	14,881	442	9.0%	33.7
5	府中市	13,606	230	8.2%	59.2
6	世羅町	6,565	559	4.0%	11.7
7	東広島市	6,241	370	3.8%	16.9
8	福山市	6,002	134	3.6%	44.8
9	三原市	5,986	101	3.6%	59.3
10	神石高原町	3,644	86	2.2%	42.4
11	廿日市市	3,198	60	1.9%	53.3
12	広島市	1,406	186	0.9%	7.6
13	呉市	330	59	0.2%	5.6
合計		165,169	4,425	100.0%	34.3

生乳需給の前年比推移(1月) (単位：%)



色申告書をもとにした調査を実施することとしており、関係組合員からの理解と協力をお願いしている。

▼ 同連は、生乳生産基盤回復には、乳用牛確保、特に二年後からの生乳生産基盤を担う乳用雌牛の出生率を高め、育成牧場対策を講じるなどし、将来への盤石な生乳生産基盤体制を整えて行くことが重要と示唆している。

▼ 現況の酪農経営では、F1子牛の販売が経営運転資金、生活資金を支えている中で、同連の示唆を、広酪の生乳出荷組合員はどの様に感じられるのだろうか。

▼ 同連の平成二十五年二月生乳生産実績において、広酪を含む各会員とも前年同期対比は、百分を下回った。

▼ 生乳生産基盤回復の特効薬は、安心して酪農経営に勤しめる適正な乳価獲得では無いだろうか。

▼ 広酪の理事の一人からは、乳価引き上げ幅は、全用途ともに二十円/kgとの思いが告げられる。

▼ この根底には、責任世代として、次の担い手である酪農後継者に安心してバトンタッチすることを念頭におかれたものである。

▼ 最近目にした酪農情報誌では、謀大手メーカー工場は、ヨーグルトの大幅製造アップを図ると報じていた。

▼ 生乳の用途販売では、飲用取引乳価よりもより安い発酵乳価格取引を示唆するものであり、気掛かりな情報である。

▼ 本誌、冒頭記事では、講演会に触れたが、この記載に目を通し戴き、各酪農家には、乳用牛の飼養管理等の徹底で事故防止を講じられ、固定資産処分損が生じないようご注意頂きたい。

(A・N)